



平成 28 年 4 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社エイチ・アイ・エス
代 表 者 名 代表取締役社長 平林 朗
(コード番号 9603 東証第一部)
問 合 せ 先 取締役 経理・財務担当
本社経理本部長 中谷 茂
(TEL 03-5908-2070)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 4 月 22 日開催の取締役会において、最近の動向を鑑みて平成 27 年 12 月 4 日に公表した連結業績予想の修正及び特別損失の計上について決議いたしましたので、お知らせいたします。

1. 特別損失の計上

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、連結子会社 TEN BOSCH CRUISE PANAMA S. A. が所有している船舶について収益性の低下による減損の兆候が認められたことから、将来の回収可能性を検討した結果、平成 28 年 10 月期第 2 四半期会計期間において、減損損失 3,508 百万円を特別損失に計上する予定であります。

2. 平成 28 年 10 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正

(平成 27 年 11 月 1 日～平成 28 年 4 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	276,000	11,000	12,000	5,800	92 円 28 銭
今回修正予想 (B)	257,000	8,300	5,100	△2,000	△31 円 82 銭
増減額 (B-A)	△19,000	△2,700	△6,900	△7,800	—
増減率 (%)	△6.9	△24.5	△57.5	—	—
(ご参考)前期実績	260,798	10,029	11,254	5,102	78 円 68 銭

3. 修正の理由

(1) 売上高の修正の主な理由

日本発海外旅行では、平成 27 年 11 月に起こったフランスでの同時多発テロの影響が想定よりも長期化しております。また、燃油サーチャージの減額による減収（約 130 億円）の影響も見られますが、これによる利益への影響はありません。

以上の要因を受け、前回発表数値から 190 億円減少の 2,570 億円と見込んでおります。

(2) 営業利益の修正の主な理由

日本発海外旅行では、同時多発テロの発生により、収益性の高いヨーロッパ方面の取扱いが減少しております。

訪日旅行では、中国経済の減速による訪日旅行客の購買商品の変化により、コミッション収入が減少傾向にあります。

また、国内旅行では、雪不足の影響によりスキーバスツアーの集客が減少しております。

ハウステンボスグループにおいては、大型団体受注の弱含みや平成 28 年 1 月の観測史上最多となる大雪の影響により当初見込んでいた入場者数を下回る見通しであります。

以上の要因を受け、前回発表数値から 27 億円減少の 83 億円と見込んでおります。

(3) 経常利益の修正の主な理由

最近の円高基調が今後も続いた場合、外貨建資産の評価損（為替差損）が発生することが見込まれます。今回発表数値は、当該評価損の見積額を織り込んだものであります。（約 32 億円。1 米ドル＝110 円で試算。）

ただし、実際の業績は、第 2 四半期末の外貨建資産の残高及び為替レートによって、変動する可能性があります。

(4) 親会社株主に帰属する四半期純利益の修正の主な理由

経常利益の減少要因に加えて、上記「1. 特別損失の計上」に記載した減損損失 3,508 百万円を特別損失に計上する予定のためであります。

4. 平成 28 年 10 月期通期連結業績予想数値

平成 28 年 4 月 14 日に発生した熊本地震による影響額も含め、現在精査中です。公表すべき事項が生じた場合、速やかに開示いたします。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって変動する可能性があります。

以 上